

○一般社団法人 日本森林学会 2019 年度第 4 回（通算第 471 回）理事会・連携学会長合同会議
議事録

日時：2019（令和元）年 12 月 23 日（月）13:00～17:30

場所：日林協会館 3 階 大会議室

開催者：黒田慶子

出席者：会長）黒田慶子，副会長）田中 浩，小島克己，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，竹中千里，正木 隆，伊藤 哲，松本麻子，福田健二，大住克博，井鷲裕司，高山範理，大久保達弘，船田 良，中村太士，梶本卓也，横井秀一，監事）小池 孝良，連携学会長）渋谷正人，森 茂太，河原孝行，竹中千里，長島啓子，伊藤 哲，主事）南光一樹，岩永青史，滝 久智，吉藤奈津子，岡本 隆，長倉淳子，澤野真治，荒木眞岳，山崎理正，永野聡一郎，今村直広，東原貴志，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，事務局）稲村崇子，オブザーバー）木暮甲吉 [林野庁]，近重朋晃 [全林試協]

議長：黒田慶子

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

1. 第 131 回大会（名古屋大会）における本部主催企画

大住理事及び荒木主事から，学会企画として「『国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律』の概要（仮題）」「ダイバーシティ推進セッション：森林学会におけるダイバーシティの実現について考える～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～」「森林学会発行の 2 誌における査読のプロセス」の 3 テーマを開催することが提案され，提案のとおり承認された。

2. 科研費（研究成果公開促進費）の発案

玉井理事より，次年度以降の科研費（研究成果公開促進費）の応募について，会員や連携学会に発案を募集するように変更することが提案され，提案の通り承認された。

3. 第 133 回大会（東北地区）での大会参加費及び開催場所

玉井理事及び森東北森林学会長より，第 133 回大会について，大会運営予算案と開催地案が報告され，大会参加費の値上げ幅について今後検討を行うことにしてよいかについて提案され，提案のとおり承認された。1983 年以降の過去 4 回続けて東北地区の開催会場となった岩手大の負担が大きく山形大のある鶴岡市の施設が手狭なことなどから，実施会場を朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）とすることが提案されたが，学会大会開催の際に地域ごとの課題に着目する重要性の観点から，東北地区主催の大会を他の地区で開催することは望ましくないという意見が出た。東北地区の施設や大学での開催可能性について，開催地の過重負担の軽減を図りながら，森林学会会長も加わり検討し直すこととなった。

4. 第 134 回大会の開催地区の決定

玉井理事より，学術大会運営規則に基づき，第 442 回理事会および 2013 年定時総会で定めた

とおり、第 134 回大会の開催機関の推薦を応用森林学会に依頼することが提案され、提案のとおり承認された。

5. 第 134 回大会以降の開催地区の順番

玉井理事より、第 134 回大会以降の開催地区の順番として、2014～2023 年度と同様のローテーションとしてよいか提案された。現在、大会運営を担う大学が集中化しているが、大会は地域でやることに意義があり、小さな大学での開催もできるような仕組みづくりの必要性が議論された。開催地区を決める以外の提案とその議論が必要であり、前回と同じ方法でローテーションを決めて良いとの結論が出なかったため、次回理事会で再度提案することとなった。

6. 2020 年度総会時のシンポジウムについて

玉井理事より、2020 年度定時総会時に開催するシンポジウムのテーマ、内容について、会長、副会長、総務理事、企画理事に一任することが提案され、提案のとおり承認された。

7. 主事の委嘱

松本理事より、森林科学担当の岡本隆主事が 2020 年 3 月 31 日をもって退任するため、後任として坂下渉会員（森林総合研究所）に委嘱することが提案され、提案の通り承認された。

8. 令和元年度学会各章受賞者の決定

表彰委員会、JFR 編集委員会、日林誌編集委員会での選考結果と受賞候補者が井鷲理事、伊藤理事、正木理事からそれぞれ報告された。審議の結果、日本森林学会賞を隅田明洋会員（北海道大学）、清和研二会員（東北大学）、熊谷朝臣会員（東京大学）に、日本森林学会奨励賞を大橋伸太会員（森林総合研究所）、宮本裕美子会員（北海道大学）に、日本森林学会学生奨励賞を森英樹会員（投稿時：筑波大学、応募時：森林総合研究所）、久野真純会員（レイクヘッド大学）、向井真那会員（京都大学）、それぞれ授与することを決定した。日本森林学会功績賞は推薦がなかった。また、JFR 論文賞を Tai Tien Dinh, Yasuaki Akaji, Tetsuya Matsumoto, Takumi Toribuchi, Takushi Makimoto, Muneto Hirobe & Keiji Sakamoto による論文（23 巻 5 号 287-296 頁）に、日本森林学会論文賞を木村憲一郎による論文（101 巻 7-13 頁）、岡崎千聖・逢沢峰昭・森嶋佳織・福沢朋子・大久保達弘による論文（100 巻 116-123 頁）にそれぞれ授与することを決定した。

学会各賞について今年度から自薦を可としたが、自薦は 2 件であった。来年度はより周知を進めることが報告された。

9. 学生ポスター賞選考委員会の組織

井鷲理事より、第 131 回大会における学生ポスター賞の選考にあたって選考委員会を組織することが提案され、提案の通り承認された。

10. 第 131 回日本森林学会・学会企画：ダイバーシティ推進セッションへの共催依頼

高山理事より、第 131 回大会におけるダイバーシティ推進セッションの共催を国立研究開発法人森林研究・整備機構に依頼することが提案され、提案のとおり承認された。

11. 大会公開シンポジウムの森林分野 CPD プログラムへの提供協力

大久保理事より、前回理事会に引き続き、大会公開シンポジウムを対象に森林分野 CPD（技術者継続教育）プログラムへの提供協力を実施することが提案された。JABEE 担当理事、学会事務局、大会運営委員会による事務体制、森林分野 CPD プログラム提供の流れが提案され、提案のとおり承認された。

12. 前回までの議事録

2019 年度第 3 回（通算第 470 回）理事会、2019 年度第 4 回メール理事会の議事録が承認された。

13. 次回理事会の開催

次回の理事会を 2020 年 4 月に開催することが承認された。

報告事項：

1. 第 131 回大会（名古屋大学）の準備状況

竹中理事（第 131 回大会運営委員長）から、公開シンポジウム、託児室利用申込み、林務系行政職員の招待等の準備状況について報告された。

梶本理事（プログラム編成委員長）から、発表申込み件数（総計 880 件）、大会のタイムテーブルの案について報告された。

横井理事（中等教育連携推進担当）から、高校生ポスター発表の申込件数（44 件）、高校生ポスター発表実行委員を組織したこと、黒田会長への高校生ポスター賞選考委員会及び表彰式への参加依頼について報告された。審査の採点基準が学術的であるかどうか、地域に根ざした活動であるかの 2 つの軸であることが確認された。

2. 連携学会からの報告

各連携学会の会長または会長代理から、役員体制、総会・大会の開催、刊行事業、表彰制度、会員数の動向、財政状況等の報告があった。各連携学会に比較的共通する課題として会員数の減少、大学の再編等により森林系教員の減員が激しく事務局の受け手が少なくなっていること、行政の会員が減少傾向にあること等が報告された。刊行物の電子出版化により収入が減っている現状が報告された。今年中部森林学会大会が台風 19 号のため延期となったが、日本森林学会大会及び各連携学会大会においても、このような非常時における対応（代理発表や発表キャンセル等）について事前に定めておいた方が良いのではないかという提案があった。

3. 総務担当からの報告

玉井理事より、代議員、理事、監事選挙の実施、日本農学会「総会・日本農学賞選考会」の開催、科研費（研究成果公開促進費）の申請ができなかったこと、4 件の共催・後援・協賛依頼の承認、会員動向について報告された。

4. 日林誌編集担当からの報告

正木理事及び町田編集部より、投稿審査状況、論文賞の選定、第 102 巻表紙写真の応募状況（6

件)について報告された。投稿と掲載の本数は増加傾向にあり、投稿者の種類も学生から公設林試まで多様性が増していることが報告された。

5. JFR 編集担当からの報告

伊藤理事及び町田編集部より、出版状況、特集号「Long-term monitoring and research in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses」(2020年6月掲載予定)が査読中、特集号「Recent advances in symbiotic associations between Frankia and actinorhizal plants」(2021年2月及び4月掲載予定)が2020年3-8月に原稿募集、特集号「Ecological management of insular forests: conservation of endangered species and native ecosystems in Ryukyu Archipelago」(2021年掲載希望)の新規採用、論文賞の選定、出版倫理に反する投稿論文の不正行為、T&Fのプロモーションについて報告された。2014年以降の年ごとの投稿・採択状況について報告された。投稿状況が厳しく、より多くの受理原稿が必要であることが報告された。

6. 森林科学担当からの報告

松本理事より、発行状況、リニューアルに向けたワーキンググループの作業状況について報告された。ワーキンググループでは誌面のフルカラー化コスト、表紙デザイン変更、シリーズ記事の再編等について検討されていることが報告された。

7. 広報担当からの報告

福田理事及び澤野主事より、メールマガジンの発行状況、jfs-mailのアドレスリストの更新、ウェブサイトの更新記録について報告された。ホームページ管理ソフトウェアのバージョン管理について、ソフトウェアライセンス購入、年間メンテナンスサポート、バージョンアップ作業料を含めた年間のコストについて報告された。

8. 企画・社会連携担当からの報告

大住理事より、将来構想委員会の活動について、連携学会会長に対する会員動向及び組織運営に関するアンケート、全国林業試験研究機関協議会からの国内研究機関連携の推進に関する意見回収、メール会議の内容が報告された。公設林試の研究者に対する、実験計画法、統計解析、論文の書き方等のセミナー開催要望があり、それに対する講師の派遣や依頼及び主催機関について議論が交わされ、全国林業試験研究機関協議会が主催し、森林学会や連携学会に依頼する形がよいのではないかな等の意見が出た。

9. 表彰担当からの報告

井鷲理事より、日本農学賞について、会員からの推薦がなく、理事から候補者として名前があった5名を検討し、第4回メール理事会により1名の推薦を決定したことが報告された。

10. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事より、男女共同参画学協会連絡会第17回シンポジウム(2019年10月12日)の台風19号接近による中止、男女共同参画学協会連絡会運営委員会(2019年12月9日)への出席、第

131 回日本森林学会・学会企画：ダイバーシティ推進セッションの開催，第 130 回日本森林学会大会における保育室利用について報告された。保育室利用については文書としてまとめ，プライバシーに配慮した上で，日林誌に学会報告として掲載を予定していることが報告された。

11. 林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事の代理として玉井理事より，2019 年度の林業遺産選定について，候補の推薦数(6 件)，今後のスケジュール（2020 年 3 月中旬まで選定作業，2020 年 4 月理事会で選定結果の審議），林野庁後援が承認されたことについて報告された。これまでに選定されている林業遺産事業の資料について電子データを製本として事務局に保管し，担当主事がデータを引き継ぐことが報告された。

12. 木材学会連携担当からの報告

船田理事より，第 70 回木材学会大会（鳥取大会・2020 年開催）及び第 71 回木材学会大会（東京農工大学・2021 年開催）の準備状況，木材学会の英文誌 Journal of Wood Science におけるオープンアクセス化，Impact Factor 及び投稿料のシステムについて報告された。

13. 大学における森林学教育の再構築に向けた取り組みについての報告

枚田邦宏会員（鹿児島大学）より，大学における森林学教育の再構築に向けた取り組みについて，森林・林業を取り巻く状況，森林系大学教育機関を取り巻く状況，現在の課題，森林教育の方向性を定める必要性，森林教育研究会の設置案等について報告された。

14. 林野庁からの報告

木暮氏より，林業・木材産業の成長産業化に向けた取組について説明された。

議事録作成者：玉井幸治，南光一樹